

新花巻図書館整備基本・実施設計業務委託

プロポーザル実施要領（別冊２）

審査の参考となる資料の作成に当たっては、「新花巻図書館整備基本計画（R7.5）」を参照するものとします。この計画は関係者が真摯に向き合って作成したのですが、具体的な条件間の突合や敷地や各種法規との整合については、十分な検証がされていない状況です。こうしたリスクについては、計画プロセス中で、市が責任を持って精査する予定ですが、今回の技術提案書の作成に当たっては、以下のような仮定をもとに考えて頂きたいと思います。ここに記載のない部分については、原則、各自の提案によるものとします。重要なものについては、質疑などを通じて不確実性を減ずる予定です。ご理解頂ければ幸いです。

I 岩手県花巻市の概要

花巻市は岩手県のほぼ中央に位置し、西に奥羽山脈、東には北上高地の山並みが連なる肥沃な北上盆地に位置し、季節ごとに変化に富んだ自然風景が広がる美しいまちです。気象条件は、北上川を挟んだ低地帯の東部では内陸型盆地気象が強く、特に夏場における昼夜の温度差が大きく、冬期は比較的温暖で積雪量が少ないです。一方、西部の奥羽山麓は寒冷多雪の気候に支配され、12月から3月まで積雪もありますが、奥羽山麓にさえぎられるため、日本海側よりは少ない積雪となっています。

観光資源も豊富で、市の西部には、東北の名湯として知られる花巻温泉郷があります。周辺は県立自然公園に指定され、立ちのぼる湯けむりと深山の緑、目の前を流れる清流が、情緒豊かな風景を醸し出します。また、「雨ニモマケズ」の詩や「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」など数々の作品で知られる宮沢賢治が生涯をすごしたまちであり、本市では、宮沢賢治が数々の作品の中で思い描いた理想郷「イーハトーブ」の世界が実感できるまちづくりを進めております。

かつて奥州街道沿いの城下町、商人町として栄えた土地として現在も城址や古い商家が残っている中心市街地は、戦災復興土地地区画整理事業により整備され、近代的な市街地整備とともに商業集積も進みましたが、近年は、少子高齢化や人口減少、郊外での宅地開発の進展と大規模商業施設の進出、高等学校の移転などによって中心市街地の空洞化が進行し、都市の中心としての機能の低下や、地域活動を支える活力低下が課題となっていました。

そこで、花巻市では、平成28年6月に、まちなかへの都市機能の集約、強化と居住誘導を図るため「立地適正化計画」を定め、JR花巻駅周辺のおおよそ1km圏内を「都市機能誘導区域」として設定し、本区域内において、地域医療の確保のため、老朽化が課題となっていた病院の移転整備事業への支援や多目的広場の整備、道路整備など、重要な都市施設の整備・集約を図るとともに、空き家や空き店舗をリノベーションして新しいビジネスと雇用を生み出し、市街地に活力を取り戻すリノベーションまちづくりに取り組んできました。その取り組みの中で商業施設跡地の市有地を花巻中央広場として整備し、様々なイベント利用が可能な拠点生まれるなどしています。

◆花巻城址散策ガイドマップについて

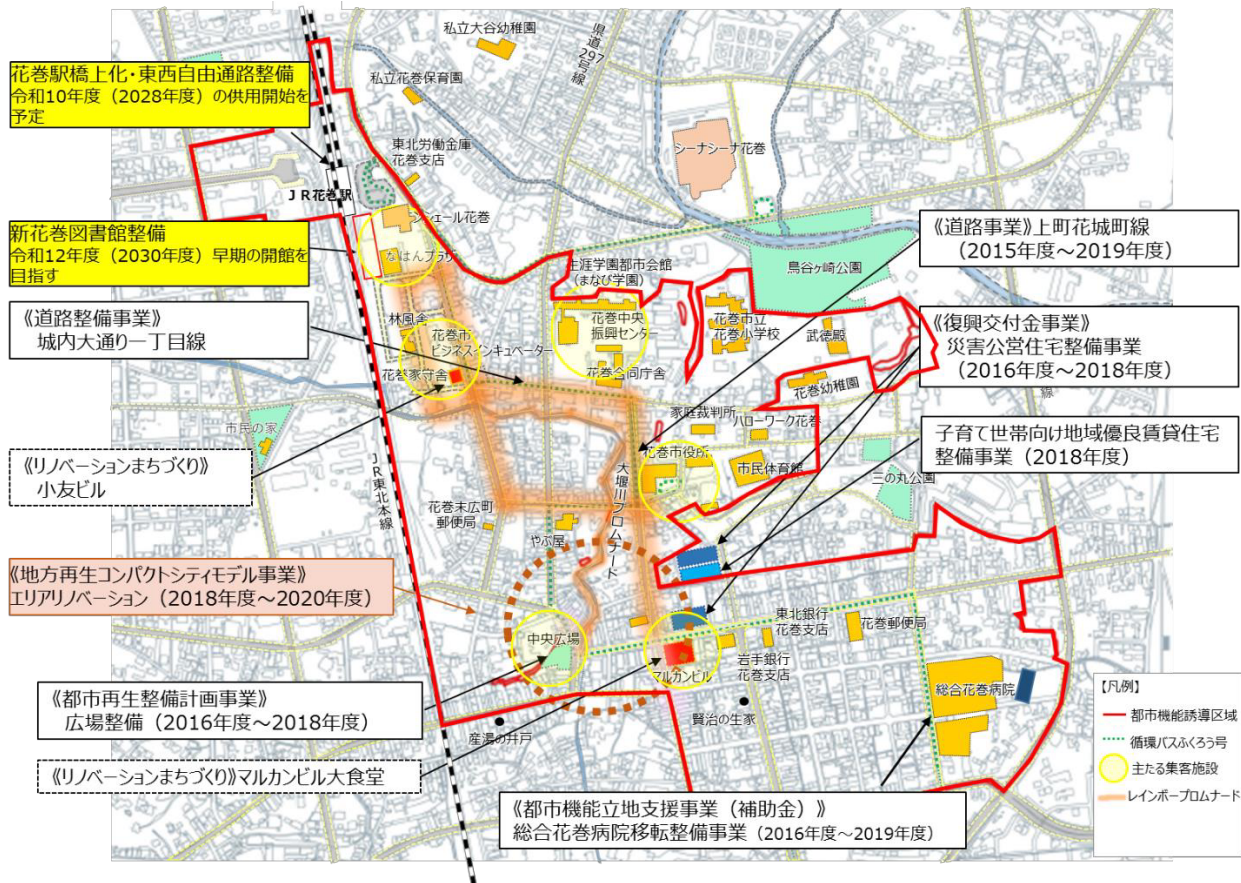
<https://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/bunka/1019886/bunkazai/1002094.html>

◆花巻市立地適正化計画について

[hanamakicity_rittitekiseikakeikaku_r503.pdf](#)

◆花巻リノベーションまちづくり構想について

[hanamaki_renovation_vision_book_r2.pdf](#)



II 上位計画との整合

「新花巻図書館整備基本構想（H29.8）」、「新花巻図書館整備基本計画（R7.5）」、などとの整合については後述しますが、その上位計画となる「第2次花巻市まちづくり総合計画（R6.2）」、「花巻市教育振興基本計画」、「花巻市都市計画マスタープラン」や「花巻市立地適正化計画」など関係する諸計画と整合させて、地域の中核として栄えてきた花巻の個性をより発展させる図書館とします。

III 敷地の活用

1. 基本的条件

新花巻図書館の計画敷地（想定）は、「花巻市定住交流センター（なはんプラザ）」西側の約3,664㎡の現在JR東日本が所有する土地です。接道は、なはんプラザ南側の市道、「大通り一丁目プラザ線」で満たしております。JR花巻駅前の「駅前広場」及び「ホテルグランシェール花巻」の土地を除き、周辺は市有地となっていることから、駅前多目的広場を図書館敷地の一部として活用するなどの自由度はあります。ただし、計画敷地（想定）を駅前多目的広場側に超えて図書館本体を配置する場合は、駅前多目的広場全体に無散水消雪装置が埋設されていることから当該無散水消雪施設の改修や、「ホテルグランシェール花巻」の土地との間は、都市計画道路（8.5.3広場1号線）指定があることから、都市計画変更の手続きが必要になることなどが見込まれます。（参考資料1）

なお、給排水や周辺道路についての諸元は、下表のとおりです。またそれぞれの概況図を参考資料として添付します（参考資料2）。

No	項目	内容
1	上水道	県道花巻和賀線内にφ75/φ100/φ200管敷設 7・6・4号線内、8・6・2号線内、第1駐車場内にφ75/φ100管敷設 8・6・5号線内、第2駐車場内にφ75管敷設
2	下水道	県道花巻和賀線内、7・6・4号線内、8・6・2号線内、第2駐車場内にφ200管敷設
3	ガス	都市ガス区域内
4	電気	引き込み可
5	消雪施設	多目的広場内に消雪施設あり
6	都市計画 道路	候補地 北東側道路：8・5・3号広場1号線（W=16m未満） 候補地 南側道路：7・6・4号大通りプラザ線（W=16m未満） 第1駐車場 北側道路：8・5・4号広場2号線（W=16m未満） 第1駐車場 東側道路：県道花巻和賀線（W=16m未満） 第1駐車場 西側道路：8・6・5号広場3号線（W=16m未満） 第2駐車場 東側道路：8・6・2号大通り中央線（W=16m未満）
7	地質	近隣で実施したボーリング調査データを添付します（参考資料3） ※本柱状図は花巻市に帰属します。複写等による二次利用を禁じます。

※「都市計画台帳」「道路台帳」「下水台帳」「公共施設」「避難所・避難場所」などについては、以下の花巻市地図情報システム（はなまきデジタルマップ）のリンクから詳細を確認できます。

<https://webgis.alandis.jp/hanamaki03/portal/language/ja/index.html>

2. 駅前としての顔

花巻駅は、かつて東北本線と釜石線が交差する旅客・輸送の要所として賑わいをみせていましたが、旅客便の削減や東北新幹線新花巻駅が郊外に開設されたことから利用客は減少し、駅前商店街の活力も低下しました。この現状に対する危機感から花巻駅周辺開発の機運が高まり、平成元年度から平成7年度にかけて、新しい都市拠点としての市街地の整備と既存中心市街地の再生を一体的に行うことを目的とした「定住拠点緊急整備事業（レインボープロジェクト）」と、土地区画整理事業を導入し、花巻市定住交流センター（なはんプラザ）、ホテルグランシェール花巻、多目的広場、商店、花巻駅南駐車場第1駐車場及び第2駐車場など、重要な都市資源を集積させることで定住基盤の確保と質の高いまちづくり整備を図りました。

この事業では、夜間の景観を考慮した照明計画、色彩景観を配慮した公共空間の整備、街路の電線地中化の整備、宮沢賢治の世界をイメージしたストリートファニチャーなど、良好な都市景観を創出するため様々な工夫を凝らした整備を行った結果、行政と民間が積極的に街並み向上に努力したことが高く評価され、都市景観大賞都市景観100選の平成6年度10選に選ばれました。

また、花巻市内には「宮沢賢治ゆかりの地」が数多くありますが、「花巻駅前」もその中の一つです。花巻駅前は「銀河鉄道の夜」のモデルとされる「岩手軽便鉄道」の駅跡地でもあり、東北本線と岩手軽便鉄道の信号機の恋物語を描いた童話「シグナルとシグナレス」の舞台でもあります。

岩手軽便鉄道株式会社は明治44（1911）年に設立され、花巻～仙人峠が開通したのは大正4（1915）年で、現在のホテル西側からなはんプラザの辺りが駅構内だったとされていますが、宮沢賢治は新しい駅や路線ができるとすぐに乗車を試みる「鉄道好き」としても知られており、花巻駅は数えきれないほど訪れていた場所といえます。

新花巻図書館の敷地は、このように、JR花巻駅前の重要な都市資源が集積しながらも宮沢賢治ゆかりの位置にあります。現在JR花巻駅は、東西自由通路整備事業を進めており、新たな駅舎は令和10年度中の供用開始を予定しています。

新花巻図書館整備では、図書館、図書館建物の隣接駐車場、花巻駅南駐車場第2駐車場（拡張予定部分を含む）、なはんプラザ南側ロータリー、JR 鉄道保守管理用通路、図書館前広場、図書館用駐輪場）などの整備を行うものであり、既存及び現在計画中の周辺施設等との調和・有機的に連携するような配慮が求められています。

3. 開かれた都市広場

図書館を含む外部空間は通常は公共空間として市民に開放されることを想定しています。駅前多目的広場は、上記レインボープロジェクトにおいて整備されたもので、冬期間でも、安全で快適な歩行者空間を確保することを目的に、広場全体に無散水消雪装置が敷設してあります。そのため冬期でもキッチンカーなどを呼んだイベントの開催など、市民の憩いの場となっております（参考資料4）。また、花巻まつり（9月開催）、駅前藤木大明神宵宮祭（7月開催）、イーハトーブ音楽祭など大型イベントの開催会場としても利用されております。駅前多目的広場等は市有地であるため、図書館の建物を同広場等敷地に入り建築することも可能であり、また駅前には緑地が少ないとの意見から同広場を図書館の前庭として芝生広場に整備することも検討した経緯がありますが、市民からは多目的広場としてイベントの継続実施に支障がないようにしてほしい、芝生等は建物の上部に設置できないか検討してほしい等の意見があります。

また、なはんプラザ COMZ ホールは駅前多目的広場側を開放し、広場と一体的な活用が可能であり（参考資料5）花巻市定住交流センターとの連携や図書館と一体的な活用も期待されています。

本プロポーザルにおいては、こうした既存施設やイベント等にも配慮された開かれた都市広場として、独自性のある提案を期待しています。また、駅前多目的広場を活用した大型イベント時における使われ方についても独自性のある提案を期待しています。

※なはんプラザ諸室については、下記リンクから詳細を確認できます。

<https://nahan-plaza.jp/room>

4 利用しやすい駐車場

花巻駅南駐車場第2駐車場については、JR 線路に隣接する市道の一部を廃止し駐車場敷地とすることで、駐車台数を60台程度増設することを想定しています。また、高齢者や障がい者、乳幼児連れの方々などが優先的に利用できる駐車場として、図書館に近接した形で38台程度の駐車スペースを確保したいと考えています。

また、駐車場に入るための道路については、JR 線路敷地へ保守点検車両の入口（現状を切り替える予定）や移動図書館車の図書館への進入経路も考慮の上、利用者の車両の通行や歩行者の通行に支障がないような出入口やロータリー的なスペースの提案も必要と考えておりそれらを考慮した優れた提案に期待しています。

Ⅲ 公共建築としての持続可能性

1. 環境への配慮

新花巻図書館は、環境に配慮した図書館として ZEB Ready の認証を取得するものとします。限られた予算の中で、図書館という利用者に寄り添った複雑な機能が必要となる公共図書館を実現することには様々な困難が伴います。技術提案書においては、それらをどう解決しようとするのか、現実的な考え方の提示が求められています。

2. 施設の長寿命化

税収が伸び悩む人口減の環境下においては、長く丁寧に建築を使うことが重要となります。多くの人が利用し、開館時間の長い公共図書館において、どのようなことが可能なのかについても考えをご提示ください。

3. 運営時の負荷を低減する方策

環境負荷の低減に並んで、ランニングコストの低減、さらには、難しく複雑な維持管理を排した、非特定のマンパワーでも運営ができる方向性を見出していくことが求められています。

IV 図書館としての性能

1. 3つの基本方針への対応

新しい図書館は、「新花巻図書館整備基本構想（H29.8）」、「新花巻図書館整備基本計画（R7.5）（以下、基本計画と略）」で議論された方向性に則って計画されることが期待されています。中でも、基本計画 p13 にある3つの基本方針、「郷土の歴史と独自性を大切に、豊かな市民文化を創造する図書館」、「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」、「暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館」という3つを実現するものでなければなりません。この地域の地勢、気候、文化、そして精神を読み込んだ独創的な提案を期待しています。

2. 施設の規模

施設は、基本計画 p. 31 に記載のある要件を目標とするものとします。この基本計画 p. 32 には、これを満たすための基本的な面積配分が挙げられています。しかしながら、この面積設定は、共有部分を厳密に区分したものとはなっていません。また、図書館の心臓部ともいうべき、開架閲覧室の設定が、23万冊の資料に対してグロスで2,200㎡しか用意されていません。単純に計算しても104.5冊/㎡となり、7段の書架が最低限の間隔で立ち並ぶ空間となるとのご指摘もいただいております。こうした課題は市に帰するものであり、施工床の上限を4,500㎡とし、必要な場合は開架閲覧室の面積を適切に変更することもありうるものとします。

※以下は、新花巻図書館整備基本計画の抜粋です。

参照：基本方針 p. 31

6-2 施設の規模

（1）新花巻図書館の収蔵能力

新花巻図書館の収蔵能力については、概ね表8のとおりとし、オープン後約50年間の資料の増加に対応するため、70万冊程度の収蔵スペースを確保します。

表 8 収蔵能力（見込み）

	収蔵能力(冊)	備考
1 開架冊数	230,000	一般・ティーンズ 98,000 児童 42,000 参考図書 20,000 地域・行政資料 30,000 視聴覚資料 40,000 新聞 35 紙、雑誌 300 誌
2 準開架(公開書庫)冊数	70,000	
3 閉架冊数	400,000	貴重書、郷土資料や児童書等の複本、新聞・雑誌のバックナンバー、地域・学校・施設等へのサービスのための資料を収蔵するほか、地域館の共同書庫としての

		機能を持たせる
合計	700,000	

※資料の増加に対応するため余裕を持った収蔵スペースとする。

利用頻度が下がった資料は開架書庫から閉架書庫へ移すことで開架の蔵書を新鮮に保ち、市民がいつ訪れても魅力的な資料に出会えるようにするほか、中央館として資料保存の機能や地域館の共同書庫としての役割を果たすため、閉架書庫はなるべく多く確保します。

また、オープン時の蔵書数は収蔵能力 70 万冊の 4 割にあたる 28 万冊程度としますが、その具体的な蔵書内容については今後開館に向けて蔵書計画を策定します。現図書館では、図書や CD、DVD など 21 万冊の資料がありますが、新館に向けて所蔵する資料の分析を行いながら、情報が古く不正確となった資料等は除籍し資料の整理を進め、今後オープンまでに年間 1 万冊程度、合計 4.5 万冊程度の除籍を検討します。さらに、蔵書構成や市の財政状況も考慮しながら新しく 8 万冊程度を目安に資料購入するほか、地域館の閉架書庫がほぼ満杯になっていることから、保存が必要な資料で地域館でのニーズが少ない資料約 3.5 万冊を共同書庫に移管し、オープン時の蔵書は 28 万冊程度を検討します。

参照：基本方針 p. 32

(2) スペース別面積規模

新花巻図書館の各施設のスペース別面積規模は表 9 のとおりです。

この規模は概ねの目安であり、日本図書館協会図書館雑誌掲載統計の「数字で見る日本の図書館貸出密度上位の公立図書館整備状況」に記載されたデータにより、床面積を想定しています。

「数字で見る日本の図書館 貸出密度上位の公立図書館整備状況」では、各人口段階の住民一人当たりの貸出資料数上位 10%にあたる自治体の平均数値をまとめており、人口 8 万人の 4,096 m²、10 万人の 5,074 m²の専有面積の 2 つの平均値 4,585 m²程度を算出し、目安として設定しています。

表 9 目安とするスペース別面積規模

区分	目安となる面積
(1)エントランススペース ①エントランス ②ラウンジスペース	200 m ² 程度
(2)開架、閲覧スペース ①展示・情報コーナー ②案内・サービスカウンター ③資料検索コーナー ④レファレンスサービスカウンター ⑤新聞・雑誌閲覧スペース ⑥書架・閲覧スペース（一般） ⑦地域（郷土）資料・行政資料スペース ⑧視聴覚スペース ⑨子ども向け書架・閲覧スペース ⑩書架・閲覧スペース（ティーンズ）	2,200 m ² 程度
(3)閉架書庫スペース	800 m ² 程度
(4)その他スペース ①学習スペース ②講座・集会・会議室 ③研究室・高齢者・障がい者へのサービス対応室 ④お話し（読み聞かせ）室・親子ふれあい室 ⑤多目的ギャラリー ⑥その他共用スペース	800 m ² 程度

(5)図書館業務スペース ①事務室 ②地域・学校図書館サービススペース ③作業スペース ④その他	500 m ² 程度
計	4,500 m ² 程度